

サクソ奏者

須川展也が語る、 音楽を“聴きに行く”喜び JVC SOLIDEGE

JVCより新たに登場したハイクラスヘッドホンシリーズ「CLASS-S」の新ラインアップ「SOLIDEGE」。過去THE SAXでもご紹介した「WOOD」シリーズは、木の振動板を採用した美しい響きが特徴の製品だったが、「SOLIDEGE」はフルステンレスボディを採用。WOODシリーズとは異なるコンセプトを打ち出している。

ともにJVCの音に対する技術が結集したモデルとなるが、今回最新モデル「SOLIDEGE 01 inner (HA-FD01)」を須川展也氏が徹底チェック。

自身の音楽に対する向き合い方とともに語ってくれた。




SOLIDEGE 01 inner (HA-FD01)

フルステンレスボディにより、伸びのある高域と輪郭のある低域を実現。さらに新開発のD3ドライバーユニットを搭載し、ソリッドでタイトな高品位サウンドを聴かせる。

Hi-Res AUDIO

製品詳細はこちら→



“聴きに行く” 楽しみを思い出させてくれた

須川 先ほどSOLIDEGE 01 innerを聴いて度肝を抜かれたと言いましたが、それはもう楽しくて、気付けば他のことを忘れてただひたすら音楽を聴くことに没頭していました。日々時間に追われる生活をしているうちに忘れかけていた、音楽を“聴きに行く”楽しみを呼び起こしてくれたんです。

スマートフォンなどが普及して音楽を簡単に聴ける環境が増えた現代では、意識をその音楽に集中して“聴きに行く”という行為に一手間感じるようになっていく気がします。手軽に音楽を知るという意味ではとても便利な世の中になりました。しかし、そのほんの少しの手間を惜しんで“なんとなく”聴き流してしまうが故に、例えばテクニカルな方向に重きを置くなど音楽表現の方向が昔と比べて変化していると感じることがあります。

音楽って、楽譜通りに上手に吹けば良いというだけでは語れないものがあって、作り手の想いやこだわりを“聴きに行く”ことで、より音楽を理解し、感動の共有ができるようになるものです。僕自身

も音楽を“聴きに行く”ことで、その曲の新たな一面を見出したり、表現方法を試行錯誤したりしていました。

みなさんもコンサート会場に足を運ぶ、この場合文字通り音楽を“聴きに行く”と、いろいろな感性が刺激されると思います。その音の空間を再現してくれるSOLIDEGE 01 innerには、思わず音楽に対して神経を研ぎ澄ませてしまう力があります。そしてこのイヤホンからその場の臨場感を得ることにより、実際にコンサート会場に行きたくなると思いますよ。吹奏楽の場合、演奏する機会が多くても演奏会を聴きに行く機会は少ないように感じます。演奏する側としては、ぜひこのイヤホンを通じて音楽を“聴きに行く”という行為を思い出してもらい、自分の感性を磨く手助けにしてもらえるとうれしいですね。

僕は仕事で旅に出ることが多いのでイヤホンは必需品です。SOLIDEGE 01 innerなら、場所を選ばずにクオリティの高い音が聴けて、そこで感性が刺激される。自分の人生を豊かにしてくれるイヤホンではないでしょうか。

指揮台の上と同じ臨場感。 イヤホンも遂にここまで来たか、と。

須川 度肝を抜かれましたよ。最初に聴いたヤマハ吹奏楽団のCDは僕がステージで指揮をしています。そのときに聴こえてきた音と変わらないほどの立体感を感じました。具体的に言うと、音の定位感が優れている。つまりどこで何の楽器が鳴っているのか明瞭にわかります。イヤホンでこれだけオケの臨場感を再現できるということに、ある意味ショックを受けましたね。良いヘッドホンでなければ味わうことができないと思っていた世界を、イヤホンで体感できたのですから。特に『エルカミーノ・レアル』の迫力は、ぜひ聴いてほしいですね。

須川氏が聴いたさまざまなCDから、今回ピックアップした2枚

-  1. ヤマハのオト ～奏でる匠のオト～ II
ヤマハ吹奏楽団 指揮：須川展也
-  2. Blue Rondo
須川展也 (Sax)・小柳美奈子 (Pf)・
奥村愛 (Vn)・鈴木大介 (Gt)

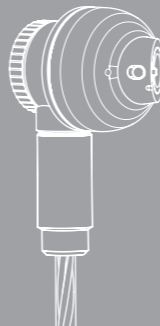
須川 僕のアルバム「Blue Rondo」も聴きましたが、サクソのキィの音、ギターの手弾く音、ヴァイオリンの弦の音まで息づくようにクリアに聴こえます。また、アルバム内の『想いの届く日』でサクソが長い音を吹くのですが、次の音にどのように向かっていくか、繊細な表情の変化までしっかりとわかりました。自分の歌い方やこだわりがはっきり伝わるのは、演奏者として嬉しかったですね。ここに挙げた2枚のCDは、どちらも音のバランスや空気感など、エンジニアと徹底的にこだわって録音しています。各楽器の混ざり合った音だけでなく、その場の緊張感まで伝えたい。それが見事に叶っていると感じます。






ノズル交換で自分好みの音を

素材が違う3種類のノズルを用意。ノズルを交換することで、好みの音色にカスタマイズすることが可能。

3-Type Nozzles



- Titanium 
- Stainless 
- Barass 



須川 この仕組みはマニア心をくすぐりますね。チタンはクリアで明るめの音で、プラスの方が少し音が柔らかくなる印象です。その違いを特に感じたのはヴァイオリンの音ですね。吹奏楽だと、プラスの方は中音域がより濃厚に聴こえてきます。チタン、ステンレスに替えるとよりソリッドに聴けます。ここまでくると好みの問題ですね。楽曲によって相性もあると思いますので、より音の違いを楽しみたい人にとってはたまらないでしょう。